

2024 年度 歴史・考古学メジャー 日本近世史（添田）ゼミ合宿

アイヌから見た蝦夷地開拓

2024 年 9 月 19 日（木）～21 日（土）、日本近世史ゼミ（メジャー専門ゼミナール）では、北海道南部においてゼミ合宿を実施した。これは、アイヌ民族の歴史や文化について、和人との交易や開拓といった関わりや収集された民俗資料などをもとに理解することを目的に企画したものである。ゼミ生 7 名が参加し、このうち 3 年生 4 名は「イザベラ・バードが観た平取」「萱野茂のアイヌ研究」「水戸藩の蝦夷地探査」「八王子千人同心の蝦夷地警備」といったテーマについて事前に調査してパンフレットにまとめ、参加者はこれを適宜参照しながら現地を歩いた。

9 月 19 日は沼ノ端駅に集合し、沙流川郡平取町の平取町立二風谷アイヌ文化博物館や萱野茂二風谷アイヌ資料館などを訪れ、学芸員の廣岡絵美氏と萱野志朗氏から解説を受けた。これらの施設にはアイヌの民具が数多く展示されており、その中には、重要有形民俗文化財に指定されているものもあった。展示を通して、アイヌの人々の衣食住や歩んだ歴史を学ぶことができた。また、現代でも木彫り作品をはじめとしてアイヌ文化を受け継いでいる人々がいるということも分かった。



同 20 日は、白老に移動し、ウポポイ（民族共生象徴空間）を訪れた。ウポポイ内の国立アイヌ民族博物館で展示やシアタープログラムを鑑賞し、狩猟や漁労を主とするアイヌ民族独自の暮らしや、和人だけでなく清やロシアとの交易が行われていたことなど歴史・文化などについて学んだ。さらに、伝統的コタンなどの体験施設を訪れ、伝統芸能や口承文芸実演の鑑賞などを行った。その後登別へ移動し、宿泊した。



同 21 日は、登別地獄谷においてボランティアガイドの方から解説を受け、地獄谷の地質や歴史、周辺の生態系などについて学んだ。江戸時代末期に南部藩が地獄谷で硫黄の採掘を行っており、その際に地獄谷の温泉が眼病に効くという逸話が生まれた、等のお話を聞いた。その後は大湯沼の風景を展望台から堪能し、足湯で疲れを癒した。

学生一同、後援会の皆様のご支援に深く感謝いたします。

